

練習会場にて配布しています。
ご意見、ご質問、ご寄稿ありましたら下記 吉田までお願いします。
ご質問、ご意見は FAX 048-857-5546

OB会事務局 自宅 pilot.fc.24.wataru@jcom.home.ne.jp
22期 吉田 亘 会社 w-yoshida@pilot.co.jp
携帯 maidookini.pilotkansai.wataru@docomo.ne.jp

今週は 28期吉川 千恵子さんによる「ラシーヌ雅歌」教室 です

【1. フランス語テキストと発音 / 日本語音訳 (萩原英彦氏)】	
Verbe égal au Très-Haut, notre unique espérance, ヴェル ^ヘ バガ ^ー ロオー トレオー ノートウルユニック エスペランス	憧 (あこが) れぞ、野辺に香れる
Jour éternel de la terre et des cieux, ジュール ^ヘ レターナル ドウ ラ テールエツ デ シュー	ゆり白く 咲き染めし
De la paisible nuit nous rompons le silence ; ドウ ラ ペズィーブル ニュイ ヌー ゾンボン ル スィラーンス	ゆくえ知れぬ、思い知らず
Divin sauveur, jette sur nous les yeux. ディヴァン ソーヴェュー ^ル ジュットウ スュール ヌー レ ^ヘ ズィュー	陽 (ひ) に染 (そ) む手こそ濡れず
Répands sur nous le feu de ta grâce puissante ; レパン スュール ヌー ル フー ドウ タ グラス プエイッサントウ	聴 (き) かず倦 (う) む日もたらず美 さと -
Que tout l'enfer fuie au son de ta voix ; クウトウ ランフェール フエイ オウ ソン ドウ タ ヴォあ	く つれなく、ことの葉は
Dissipe le sommeil d'une âme languissante ディシップ ル ソメイユ ドュヌ アーム ラングウィサントウ	年経 (ふ) りそよぎ、やすらぎ去りて
Qui la conduit à l'oubli de tes lois! キ ラ コンデュイ ^ヘ タ ロウブリ ドウ テ ロウ	暮 (く) らし歌、歌いては
Ô Christ ! sois favorable à ce peuple fidèle, オー クリスとう ソウ ファヴォーラ ^ヘ ラ ス プーブル フィデール	おりふし折られ、安らぎ秘める
Pour te bénir maintenant assemblé ; プウ トウ ベニー ^ル マントウナン アサンブレ	ゆうべに女 (め) とならざれ、
Reçois les chants qu'il offre à ta gloire immortelle, ルソウ レ シヤントウ キ ^ヘ ロッパル ア タ グロウ イむモルテル	薄れ秋暮れ あこがれ、え持てる
Et de tes dons qu'il retourne comblé. エ ドウ テ ドン キル ルトゥー ^ル ヌ コーンブレ	全ての日嬉しかれ

R (エル) 「らるれ」は軟口蓋周辺を摩擦させる音です。発生する場所からle r dorsal (舌背r音)と呼ばれます。要確認。
N/Mでん」のルビ鼻母音ですがどのように発音するかは要確認です。語尾のひらがなは子音なので、音が出るか出ないか位

【2.日本語訳[1]】

神の御言葉[2]はわれらの唯一の望み、
天と地の永遠の日、平安の夜に、その静けさを断つ我らを、
神なる救い主、我らを見守りたまえ。
あなたの大きい恵みの火を我らに注ぎたまえ。
御声 (みこえ) の音の前では全ての悪が逃げ失せるように、
御教えを忘れさせる萎えた魂の眠気を、晴らしてください。
おお、キリストよ。今ここに集いあなたをほめたたえる、忠実な私たちに恩寵を授けてください。
あなたの永遠の栄光を讃美する私たちの歌声を聞き入れてください。あなのご加護で満たされますように。

【3. 改めて歌うにあたり少し掘り下げてみました】

以下脚注したCDの解説書によれば、1873年にフォーレ28歳で作曲され、其の当時は彼の母校、エコー
ル・ニーデルメイエで教鞭をとっていました。テキストは、フランスの劇作家ジャン・ラシーヌ (1639-
1699) が劇作をやめた晩年に書いた「Cantiques spirituels (聖なる雅歌)」からとられたとされていると
のことです。一方、フランスのWikipedia^[1]サイトによれば次のような説明もありました。 フランス
語のテキスト (歌詞) は、聖アンブロワーズに捧げられて毎火曜日の朝のミサの始めに歌われた中世
のラテン語の頌歌「Consors paterni luminis」を、劇作家であったラシーヌによって、フランス語に翻訳
されたもの、とされています。つまり既存する頌歌をフランス語訳したものに、フォーレが1864年わず
か19歳の時に改めて曲をつけたというものです。同Wikipediaによれば、ラシーヌの歌詞はジャンセニズ
ム^[2]への傾倒の影響がみてとられ、ラテン語の原典では触れられている父なる神の神聖 (や三位一体の
神格) についてあまり述べられていないこと、元々の詞では、眠りから覚める朝、活動を始める朝にそ
の日1日の善い行いを願い、罪の誘惑から遠ざけて頂くよう神様の恩寵をお願いする事に重きが置かれた
内容でしたが、ラシーヌのよって、より「罪」や「原罪」に重きがおかれるようになっているよう
です。

以下、参考までにラテン語の原典を引いておきます。(読めませんが。)

【ラテン語原典：一部改訂】

Consors paterni luminis,
Lux ipse lucis et dies,
Noctem canendo rumpimus:
Assiste postulantibus.

Sic, Christe, nobis omnibus
Indulgeas credentibus,
Ut prosit exorantibus
Quod præcinentes psallimus.

Aufer tenebras mentium,
Fuga catervas dæmonum,
Expelle somnolentiam
Ne pigritantes obruat.

Sit, Christe, rex piissime,
Tibi Patrique gloria
Cum Spiritu Paraclito
In sempiterna sæcula.
Amen.

【4. フランス語の発音で気をつけたい点】

萩原英彦氏によって、フランス語の音になぞるように日本語の歌詞がつけられたということでした。とこ
ろどころ、(これは絶対しかたないけれど) 発音とは違う音の日本語がつけられているので、覚えてし
まったものを一度リセットする必要があるかと思えます。1頁目でボードにした箇所は、気づく限り
ですが、語尾とリエゾンの関係で濁る音と、濁らない音が逆転している箇所、狭い母音と広い母音が逆転
している箇所です。鼻母音とエル音については、最終的には指揮者の意向に沿うということで、願いま
す。

^[1] 翻訳は文責者によりますが、参考にしたのはポリドール株式会社London CD名盤2800- F28L28052の解説書
です。ただし改訂を加えています。

^[2] 主イエス・キリストのこと

^[3] http://fr.wikipedia.org/wiki/Wikipédia:Accueil_principal

[4] オランダの神学者コルネリウス・ヤンセンの唱えた当時は異端とされたキリスト教思想。詳細は
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ジャンセニスム> を参照の事。

吉川さんありがとうございました。